

経営比較分析表（令和6年度決算）

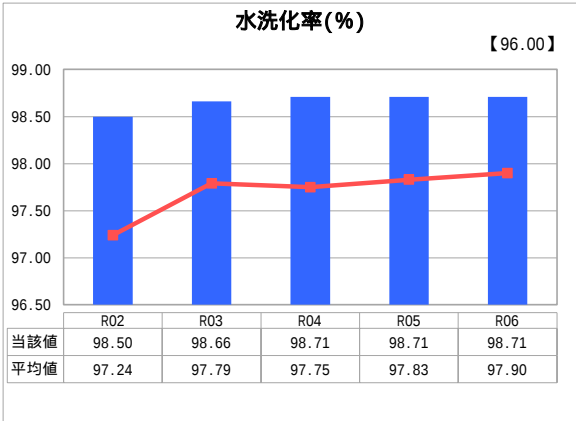
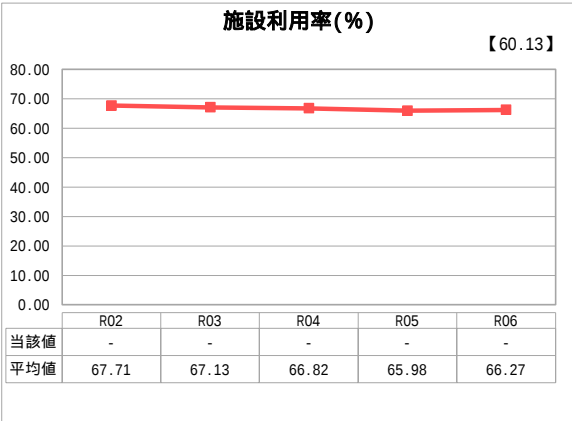
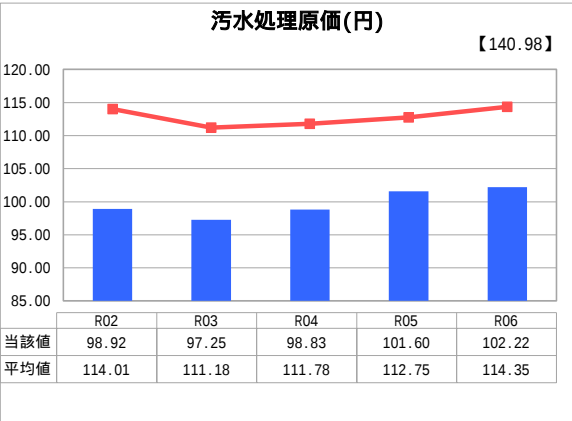
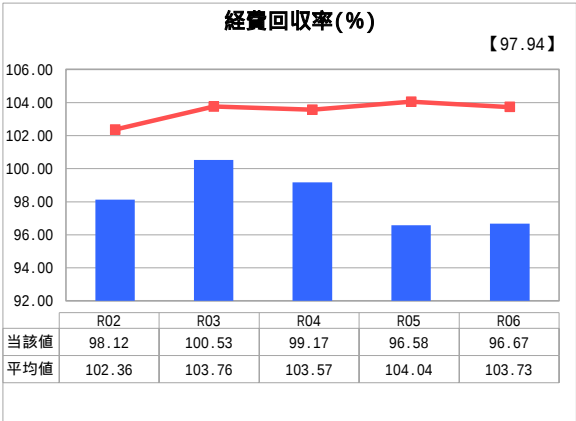
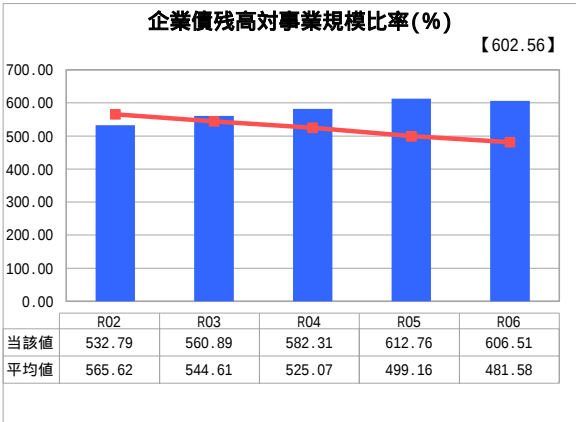
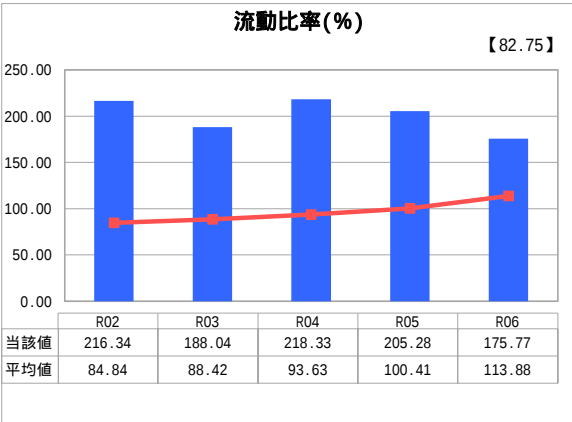
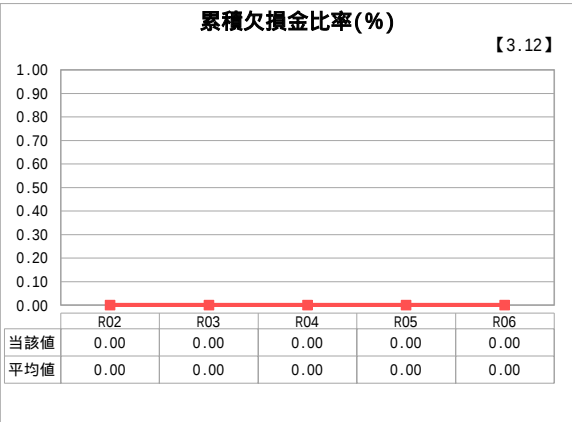
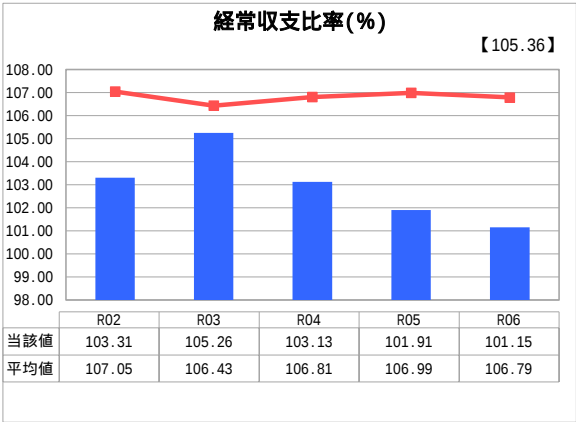
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.16	95.36	93.81	1,639

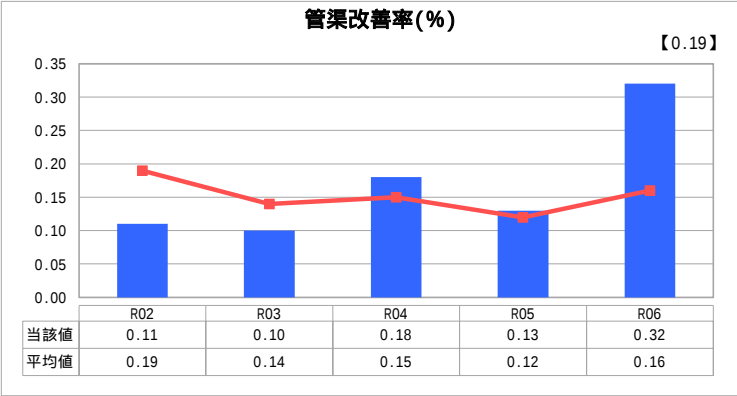
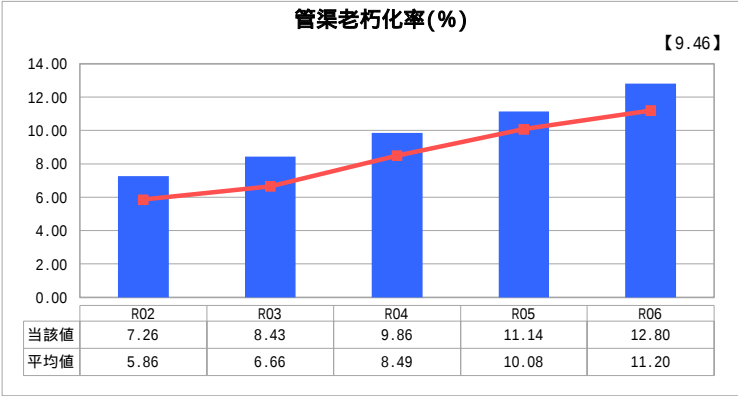
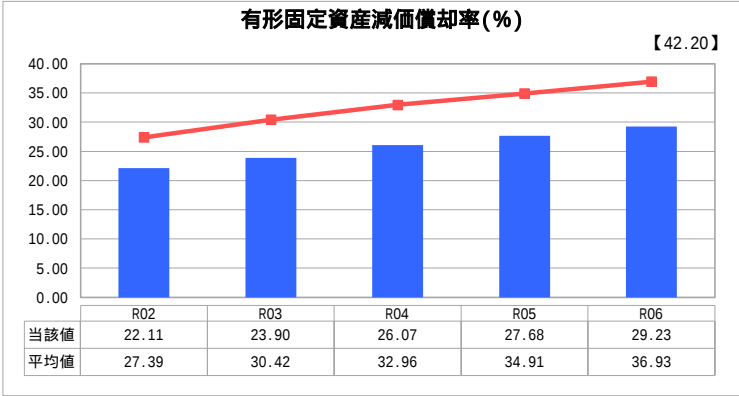
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
342,520	72.11	4,749.97
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
326,416	33.56	9,726.34

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
数値は100%を上回り、経営の健全性を保っていますが、一般会計からの基準外繰入（污水处理費赤字補填分）を行っています。この繰入は令和6年度で終了となるため、自己財源の確保と支出の削減等、より一層の経営改善が必要です。

流動比率
数値は100%を上回り、短期的な負債を現金等で賄うことができるだけの支払能力はあるものの、昨年度と比較すると減少しており、引き続き自己資金の確保が必要です。

企業債残高対事業規模比率
人件費や物価の高騰による経費の増加に加え、管渠の更新需要の増大に伴う工事費の増加により、企業債残高は増加傾向にありましたが、昨年度と比較するとやや改善しました。また、類似団体と比較すると、値は高いため、企業債の適正な借入が必要です。

経費回収率
数値は100%に達しておらず、污水处理に係る費用を下水道使用料収入で賄えていない状況です。物価高騰に伴う材料費の高騰や、管渠の老朽化に伴う緊急修繕、減価償却費の増加等により、污水处理費が増加したことが主な要因です。

污水处理原価
類似団体平均を下回っているものの、污水处理費の増加により数値が悪化傾向にあります。

水洗化率
横ばいの状態が続いているため、接続率向上に向けて、引き続き水洗化の促進活動に取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
類似団体平均を下回っているものの、管渠の老朽化が進行しており、数値が上昇傾向にあります。老朽化対策に向けて、施設の点検・検査により現状の把握に努め、施設の安定稼働に向けた取組が必要です。

管渠老朽化率
類似団体平均と比較すると、高い水準にあり、数値が上昇傾向にあります。今後もし上昇が見込まれるため、老朽化の状況を把握しながら、緊急度の高い管渠について、計画的に更新を進める必要があります。

管渠改善率
所沢市下水道ストックマネジメント計画に基づき老朽化対策を実施していますが、管渠の老朽化が進行しているため、引き続き、管渠の更新を進める必要があります。

全体総括

令和6年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえますが、経費回収率は100%を下回っている状態です。

また、管渠の老朽化が進行しており、施設の更新需要が高まっています。今後は、人件費や物価の高騰の可能性を鑑み、財政状況を踏まえながら計画的に更新を進めていく必要があります。

引き続き、自己資金の確保と支出の見直し等の経営改善に取り組みつつ、使用料改定等による収益の改善を行い、中長期的な財政状況の把握に努める必要があります。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。